第18号
平成28年11月25日

発　行
鹿児島大学教育学部
同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話・FAX 099-285-7718

編集・印刷
濱島印刷㈱

第19回同窓会総会・懇親会
＝20周年記念事業に向けて＝

平成28年度第19回教育学部同窓会総会・懇親会は8月7日ジェイドガーデンパレスにおいて、土田教育学部長、池之迫名誉会長のご臨席のもと盛大に開催された。

石神会長は、県外からの5名を含む、156名の参加がありこれまでの最高記録であったこと、また県内でも離島をはじめ広域からの参加者があり充実した総会になったと報告された。さらに、三つの専門部活動が活性化してきたこと、20周年記念事業に向けての活動が着実に推進しつつあること、学生との交流事業である「鹿児島の教育を語る会」が深化発展してきていることなどを述べられた。

その後、川内野理事の議長により協議が進められた。ここでは、会務報告、決算監査報告、運営方針、事業計画、予算等が承認された。特記すべきは、運営方針の重点事項に、平成30年の本会設立20周年に向け、実行委員会を組織して準備を推進することが加わったことである。

総会後、プレゼンテーションとして『教育学部の現状と今後』と題し、教育学部長の土田理(さとし)教授より講話をいただいた。今日の人口動態等を踏まえ、量的縮小を図るという大きな課題の中で教育改革が進行していることについて資料を提示しながら熱く語っていただいた。

後輩たちが、本県の教育を力強く切り開いてくれることを願っているが、教育学部の定員減などが予想され、同窓会としても注視していきたい。

午後からは、50年卒の進行で同窓の絆を確かめながら懇親会が賑々しく開かれた。

同窓会の更なる充実発展を

鹿大教育学部同窓会長　**石神　正明**

今年はオリンピック・パラリンピックの年であり、リオデジャネイロで熱戦が展開されて私たちに感動と勇気を与えました。選手たちのことばの中に感謝と絆・諦めない強い心等を汲み取ることができ、同窓会が大事にしてきたものと通じるものを感じました。

会員の皆様方には本会へのご理解・ご協力をいただいており、厚くお礼申し上げます。

本会の設立から多大なご尽力を賜り、「自分の土で咲こう」と同窓会の路線を確立され誠心誠意取り組んでこられた初代会長・名誉会長の松元兼俊先生が昨年12月にご逝去され、また本年8月には元教育学部長で同窓会顧問として本会の充実発展にお力添えいただいた中山右尚(ゆうしょう)先生もご逝去されました。お二人のご他界、誠に残念です。謹んで哀悼の誠を捧げたいと存じます。

さて、本年8月の総会・懇親会は、担当の昭和50年卒の皆様の意欲と緻密な計画の下で進められ、県内外より150名を超す参加のもと、盛大な会となりました。心より感謝します。

その総会で、平成30年に迎える設立20周年に向けての実行委員会を設置することが決定されました。この記念事業の一つである「会員名簿」第2号の作成は既に皆様のご協力で来年2月に発刊予定です。また同窓会の歌など他の記念事業にもアイデアを出していただき、充実した20周年にしていきたいと思います。

次に規則の改正では、総会の組織は、これまで規則の第六条に掲げる委員で構成するとしていたことを、会員をもって組織するということになりました。それは設立当初、総会は教育学部内の会議室で行っていましたが、やがて総会後、懇親会も行うようになって、外部の広い会場に場所を移したので、会員も総会から参加出来るようになりましたが、オブサーバーとしての参加でしたので、正式な参加になるように改正しました。

また同窓会では、これまで教育学部国際交流活動等を助成するため「交流等支援基金」を設けて財政面の支援をしてきましたが、この度、鹿児島大学では大学機能の強化を図るための独自の基金の必要性から、鹿大「進取の精神」支援基金が創設され、そこへも本同窓会からの支援が必要となってきました。そこでこれまで行ってきた「交流等支援基金」の中から5分の4の40万円を「進取の精神」支援基金に充てることにしました。従って、支援を希望される方はどちらかに申請して活用されることになります。

今日、教育学部は大きな変革が問われています。総会では「教育学部の現状と課題」と題して、教育学部長の土田理(さとし)先生にプレゼンテーションをしていただきました。

同窓会は学部との連携も更に深め、今後の本会の充実発展を図る必要を感じています。

平成28年度事業計画

平成28年4月15日（金）
第1回総務部会（年間計画作成）
4月19日（火）
50年卒世話係代表との打合わせ
5月2日（月）
第1回会長・副会長・専門部長（本部三役会）
5月10日（火）
会計監査
6月1日（水）
役員会（理事会議案事項の検討、その他）
6月中旬
同窓会費納入奨励月間（会費納入願発送）
6月18日（土）
支部世話役会・理事会（総会・懇親会関係、その他）
7月5日（火）
第1回広報部会（会報の企画関係）
7月8日（金）
第1回研修部会（「鹿児島の教育を語る会」運営関係）
7月13日（水）
会報「18号」掲載用 県外会員への原稿依頼
7月中旬
「語る会」会場確認、学部へ文書による依頼
8月7日（日）
第19回定期総会・懇親会開催（ジェイドガーデンパレス）
8月24日（水）
会報「18号」掲載用 県外会員への原稿依頼
9月上旬
第2回本部三役会（20周年記念事業関係）
9月23日（金）
第2回総務部会（総会・懇親会の総括、その他）
10月上旬
附属小・中の職員への「語る会」への出席依頼
10月上旬
「語る会」の案内文書発送
10月7日（金）
「鹿児島の教育を語る会」提言者事前打合わせ会
10月中旬
同窓会費納入奨励月間（会費納入願発送）
10月19日（水）
第2回広報部会（会報用依頼原稿の読み合わせ作業）
10月下旬
「語る会」各専修からの提言者・協議者確認
11月8日（火）
第2回研修部会（「鹿児島の教育を語る会」確認・準備作業）
11月上旬
第3・4回会報「18号」の校正作業（2回）
11月中旬
第3回本部三役会・「20周年記念事業」実行委員会
11月下旬
第5・6回会報「18号」の発行　発送の準備作業
11月25日（金）
第15回「鹿児島の教育を語る会」・「懇親交流会」開催
12月上旬
会報「18号」の発送（4千部数）
12月
平成29年度学部推薦Ⅰ入学予定者・学部編入学予定者へ同窓会案内発送
平成29年1月中旬
第3回研修部会（「語る会」の総括）
2月
平成29年度学部大学院入学予定者へ同窓会案内発送
2月
平成29年度学部推薦Ⅱ入学予定者へ同窓会案内発送
2月
平成29年度学部前期・後期合格者への同窓会入会案内発送
2月下旬
昭和55年卒業生（3月末退職予定者）へ会費納入願い発送
2月18日（土）
総務部と50・51・52年卒の三学年代表者との打合わせ会
3月18日（土）
全学年代表者会（第20回総会・懇親会開催への協力依頼）
3月22日（水）
卒業式、会長来賓列席「会長メッセージ」卒業学生へ配付

平成28年度 同窓会運営基本方針

教育学部同窓会は、平成10年に発足して18周年を迎える。鹿児島大学教育学部の沿革をたどれば、1875（明治8）年に始まり141年の年輪を刻む。鹿児島大学の中で本学部は最も長い歴史に支えられている学部として、2万余人の卒業生を擁する同窓会である。

本会は、会員相互の親睦、鹿児島大学及び本学部の発展と本県教育の振興を図ることを目的にして、今日的課題をとらえ活動してきている。今後は、さらに組織の拡充・活性化、在学生への支援、各地域の教育力の涵養、鹿児島大学同窓会連合会との連携に努め、以下の活動を推進する。

◇重点事項◇

1　組織の充実のために、各役員及び会員の積極的な参加を推進する。

2　学年会員同士の絆を強めるために、支部、学年ごとの同窓会の充実を図り、さらに県外在住同窓生の組織化のあり方を検討する。

3　会の運営を充実するために総務、研修、広報の専門部活動の充実を図る。また、組織化と年間の活動のあり方を検討し、専門部活動の活性化を図る。

4　「鹿児島の教育を語る会」活動を通して、「進取の気風」にあふれる在学生の育成に努め、会員との交流を深める。

5　卒業後の進路が多岐にわたる状況を考慮し、在学生への支援に努める。

6　鹿児島大学及び鹿児島大学教育学部が行う国際交流活動や大学祭等への支援事業を充実して、在学生への援助に努める。

7　「人材活用事業（地域の要請に応じた児童・生徒の諸指導、生涯学習等）」の周知を図り、その推進に努める。

8　会費納入奨励月間を設けて、会費未納者へ会費納入を勧める。

9　本会設立20周年記念に向けた実行委員会を組織して準備を推進する。

教育学部の動向

鹿児島大学教育学部長　土田　理（さとし）

国立大学法人は、平成16年度以降国立大学法人法により文部科学大臣が定める6年間の中期目標に基づき、中期計画及び年度計画を策定することが義務付けられています。平成28年4月からの第3期中期目標期間で本学部に求められているのは、「ミッションの再定義」の履行です。

平成24年度から25年度にかけて、教員養成における「ミッションの再定義」の提出が文部科学省から各国立大学へ要請されました。これは、国立大学が機能強化の取り組みへの出発点として、各大学の強みや特色、社会的役割を明確化し、第3期中期目標期間における計画を明確化することを目的としたものです。

この中で、すべての国立大学法人の教員養成学部に要請されたことは、人口動態・教員採用需要などを基に量的縮小を図りつつ、初等中等教育を担う教員の質的向上を行うことです。具体的には、学校現場で指導経験のある大学教員の採用、学校現場での実習などの実践的な学修の強化、小学校教員養成課程や教職大学院への重点化、新課程の廃止などです。

本学部もミッションの再定義の中でこれらの具体化を示し、平成29年度からの生涯教育総合課程の募集停止、学校教育教員養成課程の改組、教職大学院の設置、を進めているところです。これに伴って定員は、生涯教育総合課程の定員35は減、学校教育教員養成課程の定員も25減の200、特別支援教育教員養成課程の定員は15を維持することになる予定です。またこれまで、学校教育教員養成課程では専修単位で定員を決めて募集を行ってきましたが、平成29年度入試からは初等教育コース、中等教育コース、実技系初等中等教育コースに分けて募集を行う予定です。

生涯教育総合課程の学生募集は停止しますが、在学生がいる間は課程は存続し、これまで通りの学部教育、卒業研究を進めていくことになります。さらに教育学研究科の中に、学校教育実践高度化専攻（専門職大学院）として教職大学院を平成29年度からの開設を目指しているところです。

このように厳しい学部運営が求められている中で、鹿児島県での教員就職も厳しい状況が続いています。鹿児島県教員採用試験倍率は、小学校教員においては平成25年以降、10倍を超えて日本でもっとも高い倍率となり、中学校教員においても平均12倍、高等学校教員において平成27年は平均18倍となっています。本学部入学生は地元出身者が約6割を占め、教育採用試験を受ける多くが鹿児島県教員を目指しています。そのため現役合格率は3割程度と、厳しい現状です。

このような現状の中、未来を拓く力量を備えた教員の養成のため、平成29年度からの学部・大学院改組を通して、第3期中期目標期間には、教員を目指す高校生の確保（入口）、教員を目指す学生の養成、学部教員の意識改革（FD）、教職就職率を向上させるための方略（出口）の系統化を進める計画です。

今後とも、同窓会会員の皆様からのご支援の程、よろしくお願いいたします。

同窓会に出席して

神奈川県　昭和27年卒　藤﨑　久夫

初めて教育学部同窓会に出席しました。受付で名簿をいただき、同級生は3名の参加で少し寂しい思いをしました。

総会では、会務報告、決算報告等があり、人材を育成し、教育文化を振興するため、色々な事業が行われている様子が分かり感銘を受けました。

教育学部長さんのプレゼンテーションでは、現状に即応した教員養成を詳しくご講義され、２０２０年以降に小中高で実践される次期学習指導要領について、児童・生徒が討論や発表を通じて課題を考える「アクティブラーニング」（ＡＬ）の導入についても詳しく分かりやすくお話をされ、大変ためになりました。

会場を飛天の間に移動して懇親会が行われました。冒頭より「武岡颪」「北辰斜めに」の大合唱が行われて、会が盛り上がり、若き時代にかえったような気になりました。

宴たけなわとなり、旧友旧同僚、旧同好会のメンバー等と昔話にふけり、大変、楽しいひとときを過ごさせていただきました。はるばる鎌倉より出席して、楽しい想い出を胸に秘めて会場を後にしました。

最後の勤務校の「はらら会」（原良小学校の新旧の校長・教頭・ＰＴＡ会長・副会長・書記等役員の会）が11月23日（水）に行われる通知があり、今回で31回目になりますので、会に参加し、学校の現状や今までの歩み等を話し合い、少しでも郷土のために役に立てばと考えています。

最後に、このような同窓会がいつまでも続けられ、鹿児島の教育がますますご発展されることをお祈りいたします。

記憶に残る夏

熊本県　昭和50年卒　碇　壯

今年は特に記憶に残る夏でした。

一つ目は、８月７日の同窓会懇親会に参加し、41年ぶりの再会を楽しめたことです。昭和50年卒が幹事で、様々の企画で運営を進めてくれたこと、師範学校校友歌「武岡颪」を初めて歌ったことです。二次会まで含めて、昔話に花を咲かせ、歩んできた人生を語り、芋焼酎を何杯飲んだことでしょう。

二つ目は、リオ・オリンピックでの若者の活躍と記録です。記録と言えば、イチローの米国３０００本安打達成（二日酔いの８日朝ＴＶ観戦）で、イチローのサングラス下から流れる涙が感動的でした。

ところで、熊本城の近くに住む私ですが、４月14日・16日の二度の震度７は人生で初めて経験する「揺れ」でした。命の危険を感じ、慌てて外に出て、車中泊を体験しました。愛犬の散歩コースの熊本城は、無残な姿で、石垣はあちこちで崩れ落ち、自然の猛威を肌で感じました。何でも人間ができるという考えの基での「想定外」という言葉が嫌いになりました。地球上で生きる者にとって、「想定外」は当たり前だと思うようになりました。熊本地震ではたくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございました。熊本は、復興に励んでいます。教え子たちから安否を尋ねる連絡があり、教師であったことを誇りに思いました。記録的な猛暑日の続く熊本からの報告です。

最後に、教育学部同窓会のますますのご発展をお祈りいたします。

絆を深める同窓会

鹿児島城西高等学校長　昭和50年卒　秋武　達朗

同窓会会報第17号に「未来を開く力となる同窓会に」との石神会長さんの思いが掲載されています。また、熊本の会員の「県外同窓生の組織化を」との要望もありました。

このことも考慮し、今回50年卒が榎本学年世話係を中心に、準備を進めました。今年２月と３月の事務局開催の準備会、４月と５月の学年世話係での打ち合わせ、６月は学年全体で同窓会当日の内容等を検討し、役割分担と案内状の発送を行いました。７月は事務局からの参加者名簿をもとに、資料・名札・領収書等を作成し、前日には会場に於いて、世話係数名で最終確認を行いました。

当日は神奈川や京都など県外からもご参加いただき、156名と当初の目標を超えたことに、皆喜んでおりました。このことは、先輩の方々は勿論、現職の校長先生や後輩の方々、県外者にも声をかけたことが、功を奏したものと考えます。また、現職の教諭２名にも受付などを手伝っていただき、この同窓会の雰囲気を味わってもらったことにも感謝いたします。

今回、懇親会での新たな取組として「武岡颪」斉唱は、ほとんどが知らないため歌唱指導を加えて行いました。余興は担当学年に任せていただき、剣舞や歌・演奏なども盛況でした。懇親会は２時間でしたが、参加された皆様、本当にありがとうございました。

当日の反省会では、この同窓会の開催を知らない方がおられること、教育関係以外の方への連絡の在り方なども話題になりました。

今後とも、会長の思いや会員の要望に応え、絆を深める同窓会となるよう、各学年で連携を密にし、尽力していきたいものです。事務局の皆様には、大変お世話になり、ありがとうございました。

“繋がる”同窓会

鹿児島女子短期大学附属なでしこ幼稚園長　昭和51年卒　田之上　齊

今年の夏は異常に暑かったです。台風も日本に沢山接近・上陸しました。

一方で、更に熱くさせたのが、リオデジャネイロオリンピックにおける日本選手の熱闘でした。劇的な逆転勝利に痺れました。その裏には、限界を超えるほどまでに猛練習した選手の並々ならぬ努力がありました。それに、栄・井上・井村各コーチ・監督等の指導力と、吉田・内村選手等の先輩が後輩を育てた〝後継者育成力〟がありました。

このような年に、「第19回鹿児島大学教育学部同窓会」が開催されました。石神会長はじめ役員の皆様の厚い思いと、昭和50年卒の皆様の熱い思いが相乗し、県内外から156名もの皆様が参集され大盛会となりました。また、現役の校長先生方も多数出席され、先輩と後輩が相和した会となりました。50年卒の皆様の用意周到さと華やかな演出で熱く燃え上がりました。私自身も〝恩師〟やお世話になった先輩や後輩の皆様と再会でき懐かしむとともに、感謝の気持ちを新たにすることでした。

さて、来年度は、私たち51年卒が世話役です。乙須会長、瀬戸・田淵両幹事をはじめ19名が、来年度に備えて、50年卒の皆様の企画・運営を見習おうと、本年度の同窓会に結集しました。

来年度は、第20回という節目であり、開催日の８月６日（日）は、〈広島原爆記念日〉という平和を語り継ぐ日でもあります。

同期による横の同窓会はよく開かれていますが、先輩から後輩へ継がれ繋がり絆が結ばれる本同窓会のような縦に繋がる同窓会も深まればと思います。そして、少子化・国際化・情報化等に即応して変容していく鹿児島大学教育学部の明日をも語り、楽しい時間となればと思います。

先輩方や事務局のご助言を仰ぎながら務めさせて頂きます。よろしくお願い致します。

●会費納入について●

会費納入については、学生の場合は入学時に、すでに納入しているが、教育学部既卒者の場合は随時納入することになっている。同窓会は平成10年に設立され、会費は終身会費として1万円となっている。

会の運営は会費によってなされ、会員の親睦や母校の発展と教育の振興を図ることを目的としている。特に、既卒者で未納になっている会員にはぜひ協力をお願いしたい。

事務局としても計画的にお願いをしているが、教科部会等を通じて納入を勧めてほしい。

納入の方法については、学年代表あるいは事務局に直接連絡してほしい。

鹿児島大学教育学部同窓会役員

顧問　島田俊秀　坂尾隆　武隈晃　土田理

名誉会長　池之迫静男

会長　石神正明

副会長　松永郁男　文城テツ子　東寛治

理事　有馬暢洋　鮫島寛行　林賢一郎　川内野一彌　平澤光徳　堂園範子　永田憲太郎　水之浦修　西ゆう子　伊牟田洋

宮下宣夫　後藤千和子　福岡孝　福澤一　鵜木孝夫　久保正和　南孝一　新名主健一　松清秀一　植村哲郎　南貞己　西種子田弘芳　今林俊一　假屋園昭彦　末吉靖宏　福満博隆　下原美保　寺床勝也　瀬筒寛之

幹事　北原稔

監事　江口英雄　櫛山重遠

事務　野間ひろみ　竹之内則好

支部世話役　（鹿児島）木山照夫　（揖宿）樋園正郎　（川辺）辰野吉郎　（日置）早川良行　（川薩）向原翼　（出水）竹宮鐵郎　（伊佐）内倉昭夫　（姶良）下野隆雄　（曽於）塚本孝行　（肝属）肥後昌幸　（熊毛）羽生昌弘　（大島）大野榮三郎

学部及び連合会の関連行事

平成28年

4月1日(金)　教育学部新入学生オリエンテーション　新入学生へ会長挨拶

4月9日(土)　同窓会連合会　総会・懇親会「卒業生の集い」

5月21日(土)　同窓会連合会　第1回幹事会

8月27日(土)　同窓会連合会　第1回役員会（8学部同窓会長）

11月中旬　大学祭の学部企画事業参画　祭典経費支援

11月下旬　同窓会連合会　第2回幹事会

平成29年

1月下旬　同窓会連合会　第2回役員会

3月中旬　同窓会連合会　第3回幹事会

3月中旬　同窓会連合会　第3回役員会

❐平成27年度 教育学部同窓会一般会計決算報告書❐

1．収入の部　　（単位：円）

区　分	予算額	決算額	増減額	備　考
前年度繰越	2,052,280	2,052,280	0	
会費	0	610,000	610,000	※H 27 新入生 182 名分 1,820,000 円は、H 26 年度で処理済み。 H 27 年度分会費納入者数　243 名 『H 27 年度入学生納入内訳』 新入生　2,320,000 円 卒業生　円 在学生　円 既卒者　110,000 円
雑収入	1,000	787	△ 213	預金利息
合計	2,053,280	2,663,067	609,787	

2．支出の部

区　分	予算額	決算額	増減額	備　考
事務経費	1,195,532	1,085,794	△ 109,738	賃金 475,000 円、通信費 392,083 円、文具等 94,982 円 不動産貸付料 35,532 円、会長手当 40,000 円、その他 48,197 円
会議費	150,000	147,297	△ 2,703	総会 69,425 円、理事会・役員会 35,772 円、その他 42,100 円
事業費	598,013	457,856	△ 140,157	会報作成費 205,130 円、語る会 127,149 円 学年・教科同窓会等補助 57,564 円、人材活用事業補助 0 円 三専門部への運営費補助 68,013 円
同窓会連合会経費	150,000	154,144	4,144	鹿児島大学同窓会連合会分担金　外
会計区分変更	345,296	345,296	0	特別会計（国際交流基金）へ組み換え。 ※平成 25 年度未振替額及び平成 26 年度実施額の合算額振替
予備費	623,439	0	△ 623,439	
合計	3,062,280	2,190,387	△ 871,893	
次年度繰越額		472,680		

❐平成28年度 教育学部同窓会予算❐

（単位：円）

1．一般会計

(収入の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
前年度繰越	2,052,280	472,680	
会費	610,000	2,330,000	H 26 繰越額にはH 27 入学生分会費が含まれている。 ※会費算定基礎 2,430,000 (H 27)、 2,180,000 (H 26)、 2,380,000 (H 25) ÷ 3
雑収入	787	1,000	預金利息
合計	2,663,067	2,803,680	

(支出の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
事務経費	1,085,794	1,156,000	賃金 470 千円、通信費 500 千円、不動産貸付料（事務室借料）35 千円、文具等 70 千円、本部役員手当 40 千円、その他 80 千円
会議費	147,297	210,000	総会、理事会、役員会等 120 千円、支部長会議 50 千円、その他 30 千円
事業費	457,856	576,356	会報作成費 220 千円、鹿児島の教育を語る会 140 千円、学年教科同窓会補助 100 千円、人材活用事業 20 千円、3 専門部強化費他 86 千円 その他 10 千円
同窓会連合会経費	154,144	150,000	鹿児島大学同窓会連合会学部分担金 100 千円 外
会計区分変更	345,296	64,103	特別会計（国際交流基金）へ組み替え ※H 26 年度実施額 188,452 円及びH 27 年度実施額 156,844 円の合算額充当
予備費	0	647,221	
計	2,190,387	2,803,680	
次年度繰越額	472,680		

2．特別会計

（1）記念事業積立金

(収入の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
前年度繰越	12,500,000	12,269,500	
合　計	12,500,000	12,269,500	

(支出の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
同窓会名簿資料作成	230,500	0	
計	230,500	0	

（2）大会開催等準備基金

(収入の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
前年度繰越	1,009,986	1,009,986	
合　計	1,009,986	1,009,986	

(支出の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
	0		
計	0		

（3）国際交流基金

(収入の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
前年度繰越	154,704	435,897	
一般会計からの組み替え	188,452	64,103	H 26 年度未充当分
〃	156,844		H 27 年度充当分（H 26 年度残 311,548 円）
合　計	500,000	500,000	

(支出の部)

区　分	平成27年度決算額	平成28年度予算額	備　考
国際交流基金	64,103		
計	64,103		

異なる世代の教育観を知る良い機会

「鹿児島の教育を語る会」開催

第14回「鹿児島の教育を語る会」は、平成27年11月27日（金）午後4時から教育学部の大会議室で、教育学部の教職員・学生・卒業生約100人が参加し開催された。8グループに分かれた協議会では、テーマの「人間として大切なこと～絆づくりを高めるために～」について、学生とOBが率直に語り合った。6時半からは教育学部生協食堂で、食事をしながら懇親会が開かれ、会員相互の親睦が図られた。

前回の「語る会」は、「よき地域びと・社会人として」をテーマにして話し合われたが、多くのグループで人間関係を築くコミュニケーション能力を高めることの大切さが話題となった。

そこで、今回はコミュニケーションの質を高め、人と人との強い結び付きについてもっと考えてみたいという思いから「絆づくりを高めるために」というテーマが設定された。

協議は8グループに分かれ、テーマに対する専修学科代表の提言をもとに進められていった。6人の提言の一部を紹介する。

提　言

○　自身を知り他者を理解することで信頼関係を築く。

○　絆は、インターネットやSNSの文字で作られるものではなく、人と人とが直接言葉を交わして作られる。

○　絆とは、シーソーみたいなものである。自分から心を開く積極性も必要であるが、相手のことを受け入れる柔軟性も必要である。

○　自分以外のすべての人の「多様な価値観」と「時間」を大事にしたい。

○　教育現場で働く者に「絆づくり」は欠かせない。本気で向き合い、本音で語り合う教師を目指したい。

○　人と人は、「縁」があって知り合い、それが「絆」に変わっていく。多くの人と様々な出会いをして絆を作る人生が楽しみである。

○　コミュニケーションの回数ではなく、「また、会いたい」と思うような相互の信頼感を含んだ絆の質が大切である。

○　本当に自分ひとりでどうにもならず困ったときに助けてくれる相手がいないことに気付き、人との結び付きの大切さを知った。

「コミュニケーション能力」と「相互の信頼関係」が、絆作りを高めるうえで大切なことである。

午後4時2分から6時まで行われたグループ協議は、卒業生の司会と学生参加者の記録で進められていった。

どのグループも活発な意見や質問、感想等が時間一杯交わされていた。OBたちの丁寧な言葉や具体的な話に込められている後輩を思う気持ちと、学生たちの先輩に教えてほしいという真剣な気持ちが融合しあって温かい空気に会場が包まれていた。

参加した学生の声

◎　初めて参加したが、とても素敵な会だった。いろいろな年代の方と話せる機会は殆ど無く、自分からコミュニケーションを取ることも少ないので、先生方の意見にはっとすることが多かった。自分には思いつかないような意見、考えを知り、自分の他人に対する受けとめ方が変わったように思う。将来社会で働くうえでとても良い経験ができた。

◎　いろいろな世代の方々の教育観を知ることができ、自分の見聞が深まった。世代が異なれば見てきた時代が違って、だからこそ「語る会」の意義があるのだろう。一方で世代が異なってもそこに共通していた部分もあり、絆の根底部分はいつまでも変わらないのだと考えさせられた。改めて、教育は不易と流行だと思った。

◎　懇親交流会ではおいしい料理を食べながら、昔の鹿大について話をしていただき楽しかった。

（研修部・東　寛治）

海外体験と将来の夢

教育学部音楽専修4年
河野　ひろみ

私は小学校の教師を志し、3歳から続けてきたピアノの専門性をより高めるために、教育学部に入学しました。また外国に興味があり、在学中に海外体験をしたいという思いもありました。

大学2年の2月に、共通教育科目の授業で10日間ハワイに行きました。ホームステイや観光、語学クラスなど、自然や異文化に触れる良い経験ができました。中でも、音楽を通して外国の方と交流できたことが自分にとって大きな経験です。ピアノを現地の方と演奏し合ったり、ホームステイ先の女の子と一緒に英語で歌を歌ったりして、楽しい時間を過ごすことができました。

海外で10日間過ごして一つ感じたことは、英語や音楽などを子どもの時に、主体的に学び、取り組んだ経験が、社会で生き抜く力へ繋がるのだということです。また、自国の歴史、文化をさらに勉強したいと思いました。自分の生きている環境について学び、それを発信していく力が、これからの社会において必要であると考えます。

これらの思いは、私が小学校教師を目指すきっかけに繋がります。小学校時代に仲間と一体となって合唱する楽しさを知り、高校の時に様々な学問を学ぶことの奥深さに気付きました。自分の学んできたことを次世代の子どもたちに伝えたいという思いがあり、教師を目指して勉強しています。自分自身も学び続けながら、音楽や様々な教科を勉強する面白さを子どもたちに伝えられる、そんな教師になりたいと思います。

子どもと生きていく仕事

教育学部美術専修4年
中俣　満理奈

私の将来の夢は、子どもと関わる仕事をすることです。それは、親の仕事が影響しています。かつて母は、保育士でした。「子どもをとても大切にしている姿」が、私が小さい時から見ていた母の姿です。人に親切にすると自分も相手も良い気持ちになれます。弟もいた関係で子どもが好きになり、小さい頃から人の世話など、進んでしていました。

高校で美術系の学校に進んだので、大学でも美術をするつもりでしたが、自分が将来やりたいことを見つめなおしたときに、自分の技能を他の人に生かせる仕事の対象として、子どもと関わる仕事をしたいと思うようになりました。

鹿児島大学に来てからは、美術の技能を生かしつつ、より専門的に学んでいくとともに、子どもに関わる科目を沢山とりました。特に、高校では学べなかった心理学の授業が、私にとっては初めて知ることばかりで勉強になりました。また、特別支援の免許を取ることも授業を受けて決めました。それは、特別支援の授業が子どもにあわせた指導をするという丁寧さがあることと、どう授業すれば子どもが分かりやすいか教具や教材、発問など深く考えていることを学ぼうと思ったからです。これから、教育実習に行きますが、特別支援の授業で学んだ、子どもが分かりやすい発問の仕方を実践できるように学んでいきたいです。

イギリスでのインターンシップに行った体験からも、教師として教えるときは知識や技能を深め、子どもと関わる中で、自分の学ぶべきところを考え、子どもの成長と共に自分も成長し続けることが夢で、生涯やりたい仕事です。

「三五・三九会」について

昭和39年卒　横峯　政之

初任地から市内に再配置された小学校課程の仲間が、鹿児島市で第1回目の同志会を開いた。時は流れ、県教委主催の県教頭研修会の後の同志会で、「指導の工夫を語る場を作れ」、「想いや悩みを語り合う場を作れ」等の声が上がり、改めて語り合える同志会へと改善を図った。

時は進み、校長研修会等の語りの中で、中学校課程の同志との合同同志会について話題が出て来た。平成10年8月には小・中・高等学校合同の名簿が作成された。

平成11年11月の同志会から、小学課程・中学課程合同の同志会になった。

平成13年3月に全員が定年退職した。

平成17年に「鹿児島大学教育学部同窓会」の当番学年に当たることになり、同志会の一段の強化が必要になってきた。その一環として、これまでの名称を「三五・三九会」と改め、一層団結し組織化し連携を深めた。

以後、「三五・三九会」は毎年9月の第1木曜日に中央駅周辺のホテルで開催している。

平成22年9月には古希同窓会を開催した。参加者は毎回20名から30名前後である。本年は29名。

工夫している点の一つ目は、毎回参加・不参加にかかわらず、全員のコメントを資料に載せていることである。その内容が飲み会の場で話題になっている。二つ目は、年に1人だけ20分講話をしていることである。経験に裏打ちされた含蓄のある話が多く、好評である。

今年は全員が75歳を超える年である。この会をいつまで続けるか、続けられるか等の声が聞こえ始めている。

編集後記

▼会報第18号をお届けします。玉稿をお寄せくださった皆様にお礼を申し上げます。

▼リオオリンピック・パラリンピックの感動の余韻を残しつつ、東京での開催に向けた動きが加速しています。

▼本同窓会も設立20周年を迎えるに当たり、記念大会実行委員会が組織され、動き始めました。

▼平成30年8月5日を記念大会の日と定め、6部会を設置し、推進していきます。

▼この事業は、記念式典、大会記念誌や文集の刊行、同窓会の歌の作成などが予定されています。ご期待ください。

広報部（文城テツ子、有馬暢洋、林賢一郎、川内野一彌、後藤千和子、西ゆう子）